

# 2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算補足資料

1. 決算概観（連結）	P.2
2. 第2四半期（中間期） 業績のポイント（連結）	P.3
3. 第2四半期（中間期） 業績の状況（連結）	P.4
4. 第2四半期（中間期） 業績と予想（連結）	P.5
5. 主要製品の状況	P.6
6. 研究開発費・設備投資・減価償却費の状況（連結）	P.7
7. 開発品一覧	P.8～10
【参考資料】	
8. 損益計算書の概要（連結）	P.12～13
9. 貸借対照表の概要（連結）	P.14
10. 主な業績項目の推移（連結）	P.15
11. 杏林製薬資料	P.16～19

2024年11月7日  
杏林製薬株式会社



## ■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

# 2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算概観（連結）



(単位：百万円)	22年3月期 中間期	23年3月期 中間期	24年3月期 中間期	25年3月期 中間期	対前年 (%)	25年3月期 (予想)	対前期 (%)
売上高	49,102	49,093	54,937	<b>55,139</b>	+0.4	123,400	+3.2
営業利益	-68	777	1,335	<b>1,549</b>	+16.0	6,500	+4.3
経常利益	285	1,171	1,578	<b>2,050</b>	+29.9	6,900	+1.1
親会社株主に帰属する 中間（当期）純利益	121	1,242	1,890	<b>1,255</b>	-33.6	5,000	-8.7

## 25年3月期 第2四半期（中間期） 連結業績（実績）

**【売上高】** 薬価改定の影響はあったものの、積極的な新薬の普及に努め、主力製品である「ベオーバ」、「ラスビック」等が伸長したことにより、新医薬品等（国内）の売上は前年同期を上回る実績で推移しました。他方、後発医薬品の売上は減少しましたが、全体の売上高は551億39百万円と前年同期比2億2百万円の増収となりました。

**【利益】** 売上は増加したものの、原価率の上昇により売上総利益は235億64百万円と前年同期に対して2億72百万円減少しました。他方、販売費及び一般管理費は4億85百万円減少（うち、研究開発費は1百万円増加）した結果、営業利益は15億49百万円と前年同期比2億13百万円の増益となりました。経常利益は為替差益が生じた影響等により20億50百万円（前年同期比29.9%増）となりました。一方、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期に投資有価証券売却益を計上した反動減等があり、12億55百万円（前年同期比33.6%減）となりました。

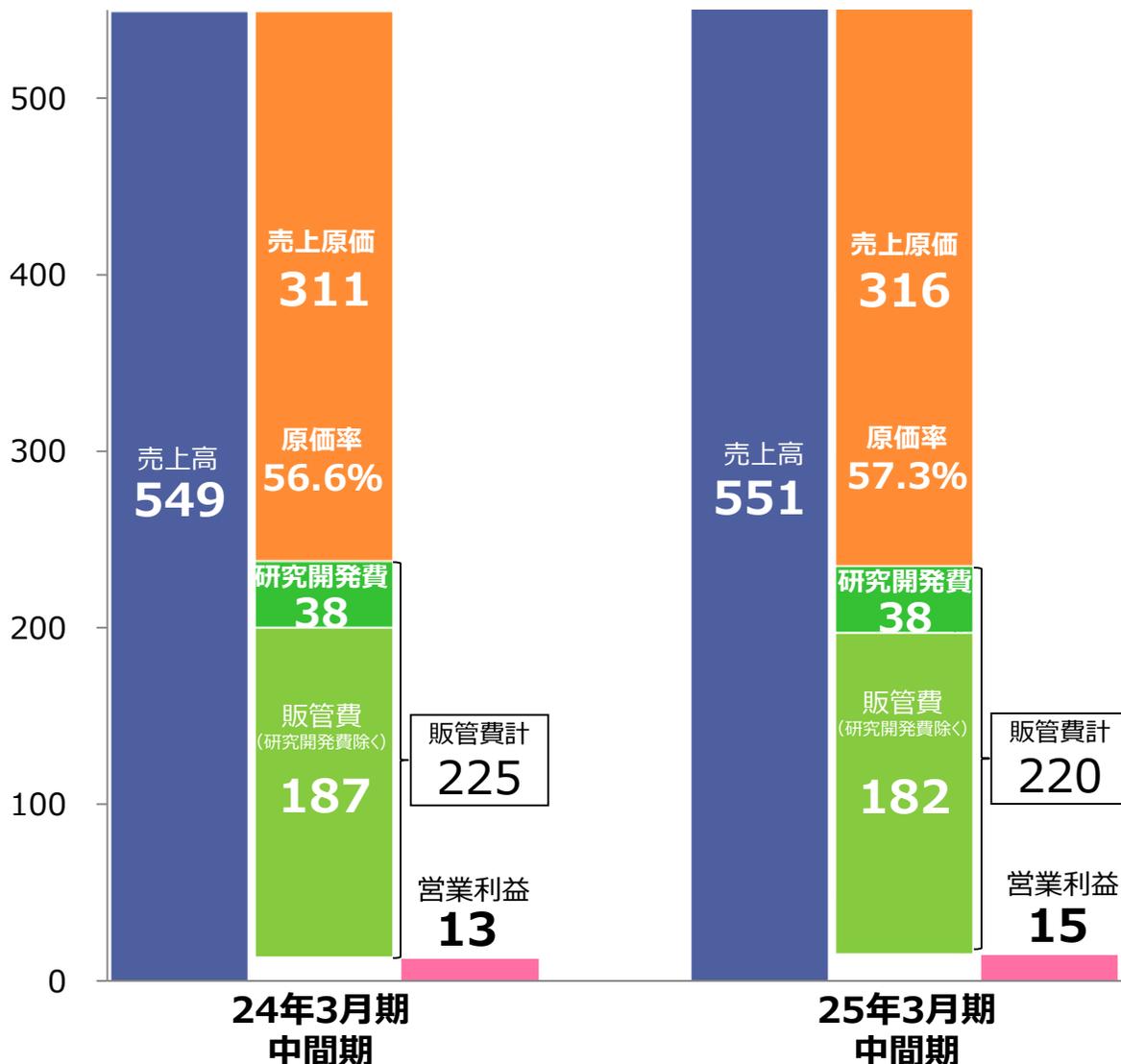
## 25年3月期 連結業績（予想）

現時点におきまして、2024年5月10日に公表した通期の業績予想を変更しておりません。  
また2024年5月10日に公表した配当予想（年間52円／株）の変更はございません。

# 2025年3月期 第2四半期（中間期） 業績のポイント（連結）



（単位：億円）



## 【ポイント】

### 売上高は増加 (+2億円)

- 新医薬品等（国内）の売上増加
  - ・新薬（ベオーバ、ラスピック等）の伸長
- 後発医薬品は売上減少

### 売上原価率は0.7ポイント上昇

#### 【低下要因】

- 新薬（ベオーバ、ラスピック等）の売上増加  
新薬比率の上昇

#### 【上昇要因】

- 薬価改定の影響（杏林製薬7%台）
- 為替変動の影響

### 売上総利益は減少 (-3億円)

### 販管費は5億円減少

- 研究開発費は横ばい
- 販管費（研究開発費除く）は5億円減少
  - ・販売費、人件費、減価償却費の減少
  - ・一般経費の増加（特許等使用料等）

### 営業利益は増加 (+2億円)

※ 2025年3月期中間期より会計方針の変更を行っており、2024年3月期中間期に係る数値については遡及修正後の数値を記載しております。

# 2025年3月期 第2四半期（中間期） 業績の状況（連結）



(単位：億円)	24年3月期 中間期	25年3月期 中間期	対前年 (額)			(対前年)	(対予想)
							2024年5月10日発表
<b>売上高</b>	549	<b>551</b>	+2	<b>■売上高</b>	<b>551億円</b>	<b>(+2)</b>	<b>(-18)</b>
<b>新医薬品等(国内)</b>	379	<b>390</b>	+11	<b>●新医薬品等(国内)</b>	<b>390億円</b>	<b>(+11)</b>	<b>(-7)</b>
<b>新医薬品(海外)</b>	2	<b>4</b>	+2		24.3 (2Q)	25.3 (2Q)	
<b>後発医薬品</b>	169	<b>157</b>	-12	・ベオーバ	83 ⇒	104	(+21) ( +1)
<b>営業利益</b>	13	<b>15</b>	+2	・ラスビック	25 ⇒	30	(+5) ( +2)
<b>経常利益</b>	16	<b>21</b>	+5	・リフヌア	4	4	( 0) ( -2)
<b>親会社株主に帰属する 中間純利益</b>	19	<b>13</b>	-6	・デザレックス	31 ⇒	34	(+3) ( -2)
				・フルティフォーム	62 ⇒	64	(+2) ( +4)
				・ペンタサ	61 ⇒	62	(+1) ( +5)
				・キプレス	26 ⇒	18	(-8) ( -3)
				・ムコグイン	20 ⇒	15	(-5) ( -4)
				・ウリトス	3 ⇒	2	(-1) ( +1)
				<b>●新医薬品(海外)</b>	<b>4億円</b>	<b>(+2)</b>	<b>(+2)</b>
				ガチフロキサシンに関わる一時的な収入			
				<b>●後発医薬品</b>	<b>157億円</b>	<b>(-12)</b>	<b>(-12)</b>
				オーソライズド・ジェネリック等の売上減少			
				<b>■営業利益</b>	<b>15億円</b>	<b>(+2)</b>	<b>(+5)</b>
				<b>●原価率：57.3%（前年同期：56.6%）</b>	【低下要因】新薬（ベオーバ、ラスビック等）の売上増加 新薬比率の上昇		
				【上昇要因】薬価改定の影響、為替変動の影響			
				<b>●研究開発費：38億円（前年同期：38億円）</b>			
				<b>●販管費(研究開発費除く)：182億円（前年同期：187億円）</b>	販売費、人件費、減価償却費の減少		
				一般経費の増加（特許等使用料等）			
				<b>■親会社株主に帰属する 中間純利益</b>	<b>13億円</b>	<b>(-6)</b>	<b>(+4)</b>

※ 2025年3月期中間期より会計方針の変更を行っており、2024年3月期中間期に係る数値については遡及修正後の数値を記載しております。

(単位：百万円)	中間期				通期			
	24年3月期 (実績)	25年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	25年3月期 (予想)	対予想 (額)	24年3月期 (実績)	25年3月期 (予想)
売上高	54,937	<b>55,139</b>	+202	+0.4	56,900	-1,761	119,532	<b>123,400</b>
新医薬品等（国内）	37,875	<b>39,029</b>	+1,153	+3.0	39,700	-671	82,581	<b>84,700</b>
新医薬品（海外）	167	<b>424</b>	+257	+153.8	200	+224	386	<b>400</b>
後発医薬品	16,895	<b>15,686</b>	-1,208	-7.2	16,900	-1,214	36,564	<b>38,200</b>
営業利益	1,335	<b>1,549</b>	+213	+16.0	1,000	+549	6,234	<b>6,500</b>
経常利益	1,578	<b>2,050</b>	+471	+29.9	1,300	+750	6,822	<b>6,900</b>
親会社株主に帰属する 中間（当期）純利益	1,890	<b>1,255</b>	-634	-33.6	900	+355	5,475	<b>5,000</b>

# 2025年3月期 第2四半期（中間期） 主要製品の状況



(単位：億円)	中間期						通期			
	23年3月期 (実績)	24年3月期 (実績)	25年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	25年3月期 (予想)	対予想 (額)	24年3月期 (実績)	25年3月期 (予想)	
新医薬品等 (国内)	<b>ベオーバ (自社販売分)</b> (過活動膀胱治療剤)	55	83	<b>104</b>	+21	+26.4	103	+1	181	220
	<b>ラスビック</b> (ニューキノロン系抗菌剤)	10	25	<b>30</b>	+5	+19.8	28	+2	49	64
	<b>リフヌア</b> (選択的P2X3受容体拮抗薬/咳嗽治療薬)	1	4	<b>4</b>	0	+7.6	6	-2	8	15
	<b>デザレックス</b> (アレルギー-性疾患治療薬)	30	31	<b>34</b>	+3	+8.3	36	-2	89	96
	<b>フルティフォーム</b> (喘息治療配合剤)	57	62	<b>64</b>	+2	+3.1	60	+4	129	125
	<b>ペンタサ</b> (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	65	61	<b>62</b>	+1	+1.4	57	+5	123	116
	<b>キプレス</b> (気管支喘息・アレルギー-性鼻炎治療剤)	27	26	<b>18</b>	-8	-30.2	21	-3	70	53
	<b>ムコダイン</b> (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	15	20	<b>15</b>	-5	-23.2	19	-4	42	43
	<b>ウリトス (自社販売分)</b> (過活動膀胱治療剤)	4	3	<b>2</b>	-1	-25.7	1	+1	5	3
	<b>ミルトン</b> (哺乳びん・乳首消毒剤)	10	10	<b>9</b>	-1	-3.7	9	0	19	19
<b>ルビスタ</b> (環境除菌・洗浄剤)	11	8	<b>6</b>	-2	-26.5	8	-2	15	15	
後発 医薬品	<b>モンテルカスト錠「KM」</b> (気管支喘息・アレルギー-性鼻炎治療剤)	54	58	<b>50</b>	-8	-12.5	51	-1	123	118
	<b>モメタゾン点鼻液「杏林」</b> (定量噴霧式アレルギー-性鼻炎治療剤)	11	9	<b>7</b>	-2	-24.0	10	-3	45	43
	<b>イミダフェナシン錠「杏林」</b> (過活動膀胱治療剤)	4	3	<b>3</b>	0	-10.7	2	+1	6	5

# 研究開発費・設備投資・減価償却費の状況（連結）

(単位：百万円)	22年3月期 中間期	23年3月期 中間期	24年3月期 中間期	25年3月期 中間期	対前年 (%)	24年3月期	25年3月期 (予想)
研究開発費	4,364	4,498	3,842	<b>3,844</b>	+0.0	8,019	<b>8,500</b>
設備投資	751	3,882	1,280	<b>4,203</b>	+228.1	6,587	<b>6,600</b>
減価償却費	1,831	1,907	2,172	<b>2,307</b>	+6.2	4,290	<b>4,500</b>

## 設備投資の詳細（実績／予想）

(単位：億円)	24年3月期 中間期	25年3月期 中間期	24年3月期	25年3月期 (予想)
工場設備	8	<b>36</b>	55	<b>51</b>
管理・販売設備	2	<b>3</b>	5	<b>9</b>
研究用設備	2	<b>3</b>	5	<b>6</b>

# 開発品一覧①（2024年11月7日現在）

## Ph3 ~ 発売

開発段階		製品名/ 開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph3 (22年9月)	Ph3 (エイタイヤー社 : 米国)	<b>KRP-R120</b>	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	エイタイヤー社	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体 (NRP2)に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	

## POCプロジェクト (Ph1 ~ Ph2)

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph1 (22年8月)	—	<b>KRP-114VP</b>	過活動膀胱	メルク社	膀胱平滑筋に存在するβ3アドレナリン受容体を選択的に刺激し、膀胱を弛緩させることで蓄尿機能を亢進し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する	「ベオーバ」の小児への適応拡大
—	Ph1 (21年4月: 英国)	<b>KRP-A218</b>	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症	自社	宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する抗ウイルス薬	

# 開発品一覧②（2024年11月7日現在）

## 導入品の状況

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph2 (19年12月) あすか製薬(株)	—	<b>AKP-009</b>	前立腺肥大症	あすか製薬(株)	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結（20年9月） 高用量での追加Ph1試験（終了）

※再度実施したPh1試験の結果を受けて次のステップを検討中（あすか製薬）

## 導出品の状況

開発段階	製品名／ 開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph3	<b>KRP-203</b>	プリオセラ社	—	自社	S1P受容体アゴニスト	本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産及び原薬等を譲渡（20年9月）

## その他：（2024年11月7日現在）

### DTxの状況

契約先	開発コード	適応症	備考
サスメド	<b>KRP-DT123</b>	耳鳴	耳鼻科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結（22年11月） 特定臨床研究開始（23年9月）

## 【参考資料】

# 損益計算書の概要 (連結) - ①

(単位：百万円)	24年3月期 中間期		25年3月期 中間期			
	実績	売上比 (%)	実績	売上比 (%)	対前年 (%)	対前年 (額)
売上高	54,937	100.0	<b>55,139</b>	100.0	+0.4	+202
新医薬品等 (国内)	37,875	68.9	<b>39,029</b>	70.8	+3.0	+1,153
新医薬品 (海外)	167	0.3	<b>424</b>	0.8	+153.8	+257
後発医薬品	16,895	30.8	<b>15,686</b>	28.4	-7.2	-1,208

<連結子会社及び持分法適用会社について>

連結子会社2社： キョーリン リメディオ(株)  
キョーリン製薬グループ工場(株)  
持分法適用会社1社：日本理化学薬品(株)

## <当期のポイント>

(対前年)

■ 売上高	<b>55,139百万円</b>	( +202)
● 新医薬品等 (国内)	<b>39,029百万円</b>	(+1,153)
(億円)	24.3 (2Q)	25.3 (2Q)
・ベオーバ	83 ⇒	104 ( +21)
・ラスビック	25 ⇒	30 ( +5)
・リフヌア	4	4 ( 0)
・デザレックス	31 ⇒	34 ( +3)
・フルティフォーム	62 ⇒	64 ( +2)
・ペンタサ	61 ⇒	62 ( +1)
・キプレス	26 ⇒	18 ( -8)
・ムコダイン	20 ⇒	15 ( -5)
・ウリトス	3 ⇒	2 ( -1)
● 新医薬品 (海外)	<b>424百万円</b>	( +257)
・ガチフロキサシンに関わる一時的な収入		
● 後発医薬品	<b>15,686百万円</b>	( -1,208)
・オーソライズド・ジェネリック等の売上減少		

# 損益計算書の概要（連結）－②

(単位：百万円)	24年3月期 中間期		25年3月期 中間期			
	実績	売上比 (%)	実績	売上比 (%)	対前年 (%)	対前年 (額)
<b>売上高</b>	54,937	100.0	<b>55,139</b>	100.0	+0.4	+202
<b>売上原価</b>	31,101	56.6	<b>31,575</b>	57.3	+1.5	+474
<b>売上総利益</b>	23,836	43.4	<b>23,564</b>	42.7	-1.1	-272
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	22,500 (3,842)	41.0 (7.0)	<b>22,015</b> <b>(3,844)</b>	39.9 (7.0)	-2.2 (+0.0)	-485 (+1)
<b>営業利益</b>	1,335	2.4	<b>1,549</b>	2.8	+16.0	+213
営業外収益	313	0.6	<b>571</b>	1.0	+82.3	+257
営業外費用	70	0.1	<b>69</b>	0.1	-0.7	-0
<b>経常利益</b>	1,578	2.9	<b>2,050</b>	3.7	+29.9	+471
特別利益	969	1.8	<b>0</b>	0.0	-100.0	-969
特別損失	8	0.0	<b>181</b>	0.3	—	+173
<b>税金等調整前 中間純利益</b>	2,540	4.6	<b>1,869</b>	3.4	-26.4	-670
<b>法人税等</b>	649	1.2	<b>613</b>	1.1	-5.6	-36
<b>親会社株主に帰属 する中間純利益</b>	1,890	3.4	<b>1,255</b>	2.3	-33.6	-634

## <当期のポイント>

(対前年)

◆ **売上原価率：57.3%** **(+0.7ポイント)**

【低下要因】

- ・新薬（ベオーバ、ラスビック等）の売上増加  
新薬比率の上昇

【上昇要因】

- ・薬価改定の影響（杏林製薬7%台）
- ・為替変動の影響

◆ **研究開発費率：7.0%** **(横ばい)**

- ・38億円（前年同期比：横ばい）

◆ **販管費率（研究開発費除く）：33.0%**  
**(-1.0ポイント)**

- ・182億円（前年同期比：5億円減少）  
販売費、人件費、減価償却費の減少  
一般経費（特許等使用料等）の増加

■ **営業利益：1,549百万円** **(+213百万円)**

■ **経常利益：2,050百万円** **(+471百万円)**

■ **親会社株主に帰属  
する中間純利益：1,255百万円** **(-634百万円)**

- ・前年同期 主な特別利益：  
投資有価証券売却益9億69百万円

■ **配当（中間） 20円00銭/株**

## 貸借対照表の概要 (連結)

(単位：百万円)	24年3月期末		25年3月期 中間期末		
	実績	構成比 (%)	実績	構成比 (%)	前期末増減
<b>流動資産</b>	<b>119,240</b>	<b>67.1</b>	<b>119,611</b>	<b>66.9</b>	<b>+370</b>
現金及び預金	13,886		<b>14,017</b>		
受取手形、売掛金、及び契約資産	47,741		<b>37,052</b>		
有価証券	99	—	<b>499</b>	—	—
棚卸資産	53,401		<b>61,483</b>		
その他	4,110		<b>6,558</b>		
<b>固定資産</b>	<b>58,386</b>	<b>32.9</b>	<b>59,254</b>	<b>33.1</b>	<b>+867</b>
有形固定資産	28,950		<b>30,299</b>		
無形固定資産	5,088	—	<b>5,018</b>	—	—
投資その他	24,348		<b>23,936</b>		
<b>資産合計</b>	<b>177,627</b>	<b>100.0</b>	<b>178,865</b>	<b>100.0</b>	<b>+1,238</b>
<b>流動負債</b>	<b>45,491</b>	<b>25.6</b>	<b>33,393</b>	<b>18.7</b>	<b>-12,098</b>
支払手形及び買掛金	14,265	—	<b>13,838</b>	—	—
その他流動負債	31,226		<b>19,554</b>		
<b>固定負債</b>	<b>1,400</b>	<b>0.8</b>	<b>15,445</b>	<b>8.6</b>	<b>+14,044</b>
<b>負債合計</b>	<b>46,892</b>	<b>26.4</b>	<b>48,838</b>	<b>27.3</b>	<b>+1,945</b>
<b>株主資本</b>	<b>124,829</b>	<b>70.3</b>	<b>124,224</b>	<b>69.5</b>	<b>-604</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>5,905</b>	<b>3.3</b>	<b>5,802</b>	<b>3.2</b>	<b>-103</b>
その他有価証券評価差額金	5,926		<b>5,690</b>		
為替換算調整勘定	—	—	<b>—</b>	—	—
退職給付に係る調整累計額	-20		<b>112</b>		
<b>純資産合計</b>	<b>130,735</b>	<b>73.6</b>	<b>130,027</b>	<b>72.7</b>	<b>-707</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>177,627</b>	<b>100.0</b>	<b>178,865</b>	<b>100.0</b>	<b>+1,238</b>

## &lt;当期のポイント&gt;

(対前期末)

## ■ 流動資産：370百万円増

- ・現金及び預金の増加 ( +130百万円)
- ・受取手形、売掛金、及び契約資産の減少 ( -10,689百万円)
- ・有価証券の増加 ( +399百万円)
- ・棚卸資産の増加 ( +8,082百万円)
- ・その他の増加 ( +2,447百万円)

## ■ 固定資産：867百万円増

- ・有形固定資産の増加 ( +1,348百万円)
- ・無形固定資産の減少 ( -69百万円)
- ・投資その他の減少 ( -411百万円)

## ■ 流動負債：12,098百万円減

- ・支払手形及び買掛金の減少 ( -426百万円)
- ・その他流動負債の減少 ( -11,671百万円)

## ■ 固定負債：14,044百万円増

# 主な業績項目の推移（連結）

(単位：百万円)	23年3月期 中間期	24年3月期 中間期	25年3月期 中間期	24年3月期	25年3月期 (予想)
売上高	49,093	54,937	<b>55,139</b>	119,532	<b>123,400</b>
（海外売上）	(312)	(167)	<b>(424)</b>	(386)	<b>(400)</b>
売上原価	27,481	31,101	<b>31,575</b>	67,904	—
（売上原価率）	(56.0%)	(56.6%)	<b>(57.3%)</b>	(56.8%)	—
販売費及び一般管理費	20,833	22,500	<b>22,015</b>	45,394	—
（販管費率）	(42.4%)	(41.0%)	<b>(39.9%)</b>	(38.0%)	—
うち研究開発費	4,498	3,842	<b>3,844</b>	8,019	<b>8,500</b>
（研究開発費率）	(9.2%)	(7.0%)	<b>(7.0%)</b>	(6.7%)	<b>(6.9%)</b>
営業利益	777	1,335	<b>1,549</b>	6,234	<b>6,500</b>
（営業利益率）	(1.6%)	(2.4%)	<b>(2.8%)</b>	(5.2%)	<b>(5.3%)</b>
経常利益	1,171	1,578	<b>2,050</b>	6,822	<b>6,900</b>
（経常利益率）	(2.4%)	(2.9%)	<b>(3.7%)</b>	(5.7%)	<b>(5.6%)</b>
中間（当期）純利益	1,242	1,890	<b>1,255</b>	5,475	<b>5,000</b>
（中間（当期）純利益率）	(2.5%)	(3.4%)	<b>(2.3%)</b>	(4.6%)	<b>(4.1%)</b>
一株当たり利益	21.69円	32.97円	<b>21.86円</b>	95.41円	<b>87.03円</b>
資本金	700	700	<b>700</b>	700	—
総資産	175,461	176,102	<b>178,865</b>	177,627	—
純資産	124,735	126,158	<b>130,027</b>	130,735	—
一株当たり純資産	2,176.74円	2,196.01円	<b>2,263.36円</b>	2,275.68円	—
自己資本利益率	1.0%	1.4%	<b>1.0%</b>	4.3%	—
自己資本比率	71.1%	71.6%	<b>72.7%</b>	73.6%	—
人員	2,215人	2,156人	<b>2,048人</b>	2,042人	—
設備投資	3,882	1,280	<b>4,203</b>	6,587	<b>6,600</b>
減価償却費	1,907	2,172	<b>2,307</b>	4,290	<b>4,500</b>

※ 2025年3月期中間期より会計方針の変更を行っており、2024年3月期に係る数値については遡及修正後の数値を記載しております。

# 損益計算書の概要：杏林製薬－①

(単位：百万円)	24年3月期 中間期		25年3月期 中間期			
	実績	売上比 (%)	実績	売上比 (%)	対前年 (%)	対前年 (額)
売上高	47,673	100.0	<b>48,563</b>	100.0	+1.9	+890
新医薬品等（国内）	37,216	78.1	<b>38,239</b>	78.7	+2.7	+1,022
新医薬品（海外）	167	0.4	<b>424</b>	0.9	+153.8	+257
後発医薬品	10,289	21.6	<b>9,899</b>	20.4	-3.8	-389

## <当期のポイント>

(対前年)

■売上高 **48,563百万円** ( +890)

●新医薬品等（国内） **38,239百万円** (+1,022)

(億円)

	24.3 (2Q)	⇒	25.3 (2Q)	
・ベオーバ	83	⇒	104	( +21)
・ラスビック	25	⇒	30	( +5)
・リフヌア	4		4	( 0)
・デザレックス	31	⇒	34	( +3)
・フルティフォーム	62	⇒	64	( +2)
・ペンタサ	61	⇒	62	( +1)
・キプレス	26	⇒	18	( -8)
・ムコダイン	20	⇒	15	( -5)
・ウリトス	3	⇒	2	( -1)

●新医薬品（海外） **424百万円** ( +257)

・ガチフロキサシンに関わる一時的な収入

●後発医薬品 **9,899百万円** ( -389)

・オーソライズド・ジェネリック等の売上減少

# 損益計算書の概要：杏林製薬－②

(単位：百万円)	24年3月期 中間期		25年3月期 中間期			
	実績	売上比 (%)	実績	売上比 (%)	対前年 (%)	対前年 (額)
売上高	47,673	100.0	48,563	100.0	+1.9	+890
売上原価	25,198	52.9	26,247	54.0	+4.2	+1,048
売上総利益	22,474	47.1	22,316	46.0	-0.7	-158
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	20,594 (3,344)	43.2 (7.0)	20,228 (3,415)	41.7 (7.0)	-1.8 (+2.1)	-365 (+71)
営業利益	1,879	3.9	2,087	4.3	+11.1	+207
営業外収益	467	1.0	626	1.3	+34.1	+159
営業外費用	29	0.1	57	0.1	+95.6	+28
経常利益	2,317	4.9	2,656	5.5	+14.6	+338
特別利益	47,813	100.3	0	0.0	-100.0	-47,813
特別損失	3	0.0	125	0.3	—	+122
税金等調整前 中間純利益	50,127	105.1	2,530	5.2	-95.0	-47,596
法人税等	795	1.7	693	1.4	-12.8	-101
親会社株主に帰属 する中間純利益	49,331	103.5	1,837	3.8	-96.3	-47,494

## <当期のポイント>

(対前年)

◆売上原価率：54.0% (+1.1ポイント)

【低下要因】

・新薬（ペオーバ、ラスピック等）の売上増加

【上昇要因】

・薬価改定の影響（杏林製薬7%台）

・為替変動の影響

◆研究開発費率：7.0% (横ばい)

・34億円（前年同期比：1億円増加）

◆販管費率（研究開発費除く）：34.6% (-1.6ポイント)

・168億円（前年同期比：5億円減少）

販売費、人件費、減価償却費の減少

一般経費（特許等使用料等）の増加

■営業利益：2,087百万円 (+207百万円)

■中間純利益：1,837百万円 (-47,494百万円)

・前年同期 主な特別利益：

連結子会社吸収合併による抱合せ株式消滅差益468億43百万円

投資有価証券売却益9億69百万円

# 貸借対照表の概要：杏林製薬

(単位：百万円)	24年3月期末		25年3月期 中間期末		
	実績	構成比 (%)	実績	構成比 (%)	前期末増減
<b>流動資産</b>	115,089	70.4%	<b>117,106</b>	71.2	+2,017
現金及び預金	9,950		<b>10,670</b>		
売掛金及び契約資産	42,451		<b>32,379</b>		
有価証券	99	—	<b>499</b>	—	—
棚卸資産	44,369		<b>50,544</b>		
その他	18,217		<b>23,012</b>		
<b>固定資産</b>	48,363	29.6%	<b>47,374</b>	28.8	-989
有形固定資産	6,741		<b>6,749</b>		
無形固定資産	4,920	—	<b>4,581</b>	—	—
投資その他	36,702		<b>36,043</b>		
<b>資産合計</b>	163,453	100.0%	<b>164,481</b>	100.0	+1,027
<b>流動負債</b>	43,121	26.4%	<b>30,458</b>	18.5	-12,662
買掛金	14,245		<b>13,160</b>		
その他流動負債	28,875	—	<b>17,297</b>	—	—
<b>固定負債</b>	975	0.6%	<b>14,923</b>	9.1	+13,948
<b>負債合計</b>	44,096	27.0%	<b>45,382</b>	27.6	+1,285
<b>株主資本</b>	113,550	69.5%	<b>113,528</b>	69.0	-22
<b>評価・換算差額等</b>	5,805	3.6%	<b>5,570</b>	3.4	-235
<b>純資産合計</b>	119,356	73.0%	<b>119,098</b>	72.4	-257
<b>負債及び純資産合計</b>	163,453	100.0%	<b>164,481</b>	100.0	+1,027

## <当期のポイント>

(対前期末)

### ■ 流動資産：2,017百万円増

- ・ 現金及び預金の増加 ( +719百万円)
- ・ 売掛金及び契約資産の減少 ( -10,072百万円)
- ・ 有価証券の増加 ( +399百万円)
- ・ 棚卸資産の増加 ( +6,174百万円)
- ・ その他の増加 ( +4,795百万円)

### ■ 固定資産：989百万円減

- ・ 有形固定資産の増加 ( +8百万円)
- ・ 無形固定資産の減少 ( -339百万円)
- ・ 投資その他の減少 ( -658百万円)

### ■ 流動負債：12,662百万円減

- ・ 買掛金の減少 ( -1,084百万円)
- ・ その他の減少 ( -11,578百万円)

### ■ 固定負債：13,948百万円増

# 主な業績項目の推移：杏林製薬

(単位：百万円)	23年3月期 中間期	24年3月期 中間期	25年3月期 中間期	24年3月期	25年3月期 (予想)
売上高	42,210	47,673	<b>48,563</b>	105,157	<b>107,800</b>
(海外売上)	(195)	(167)	<b>(424)</b>	(386)	<b>(400)</b>
売上原価	22,770	25,198	<b>26,247</b>	56,581	—
(売上原価率)	(53.9%)	(52.9%)	<b>(54.0%)</b>	(53.8%)	—
販売費及び一般管理費	18,905	20,594	<b>20,228</b>	41,682	—
(販管费率)	(44.8%)	(43.2%)	<b>(41.7%)</b>	(39.6%)	—
うち研究開発費	3,712	3,344	<b>3,415</b>	7,088	<b>7,400</b>
(研究開発费率)	(8.8%)	(7.0%)	<b>(7.0%)</b>	(6.7%)	<b>(6.9%)</b>
営業利益	534	1,879	<b>2,087</b>	6,893	<b>7,000</b>
(営業利益率)	(1.3%)	(3.9%)	<b>(4.3%)</b>	(6.6%)	<b>(6.5%)</b>
経常利益	1,170	2,317	<b>2,656</b>	7,632	<b>7,600</b>
(経常利益率)	(2.8%)	(4.9%)	<b>(5.5%)</b>	(7.3%)	<b>(7.1%)</b>
中間(当期)純利益	1,685	49,331	<b>1,837</b>	53,144	<b>5,500</b>
(中間(当期)純利益率)	(4.0%)	(103.5%)	<b>(3.8%)</b>	(50.5%)	<b>(5.1%)</b>
一株当たり利益	22.70円	858.60円	<b>31.97円</b>	925.92円	<b>95.73円</b>
資本金	4,317	700	<b>700</b>	700	—
総資産	160,792	159,331	<b>164,481</b>	163,453	—
純資産	119,636	116,724	<b>119,098</b>	119,356	—
一株当たり純資産	1,610.88円	2,031.56円	<b>2,072.87円</b>	2,077.37円	—
自己資本利益率	1.4%	41.4%	<b>1.5%</b>	44.2%	—
自己資本比率	74.4%	73.3%	<b>72.4%</b>	73.0%	—
人員	1,421人	1,464人	<b>1,355人</b>	1,353人	—
設備投資	162	576	<b>598</b>	1,108	<b>1,400</b>
減価償却費	795	1,252	<b>1,015</b>	2,410	<b>1,900</b>

※2023年4月1日付で当社の完全子会社であった旧杏林製薬株式会社を吸収合併しました。2023年3月期までは、吸収合併前の旧杏林製薬株式会社の数値であり、2024年3月期以降は吸収合併後の当社の数値となっております。

※2025年3月期中間期より会計方針の変更を行っており、2024年3月期に係る数値については遡及修正後の数値を記載しております。